

## ■公共図書館での実践事例

# さまざまな地域の皆様へ“読む喜び”を届けるために

東京都新宿区立戸山図書館  
主任 川畑 義人

### 新宿区内の障害者サービス拠点館として

新宿区立戸山図書館は、新宿区立図書館11館の中で、障害者サービスの拠点館に位置づけられています。

具体的な活動は、ボランティア団体である新宿区声の図書館研究会や全国音訳ボランティアネットワークの皆様と協働して録音図書を制作し、おもに視覚障害がある方への貸し出し及び国立国会図書館への提供を通し、インターネット経由で全国の障害者に届けています。

また、障害関係の資料やバリアフリー資料の積極的な収集と貸し出しの実施、近隣の子ども総合センターにて、障害幼児一時保育でのおはなし会の運営、来館が困難な方のための家庭配本サービスを行っています。

それに加えて今年度は、視覚障害者をおもな対象に、鶴見大学と共催し、3Dプリンターで作ったスカイツリーなどの模型を利用した「さわって楽しむ東京名所めぐり」、研修会「知的障害者を読書に誘う合理的配慮の実際」

や、一般家族向けに「視覚障害がある人のくらしを知ろう」の開催など、啓蒙活動にも注力をしています。

### 地域のニーズを掘り起こせ

上記のように、視覚障害者への読書支援活動は長年にわたって行ってきましたが、地域で暮らす他の障害者の図書館利用に対する希望は把握をしていませんでした。

そこで新宿区社会福祉協議会へ相談に伺い、新宿区立新宿福祉作業所（以下、作業所）を紹介してもらいました。作業所職員の方に目的や図書館で提供可能なサービス内容をお話したところ、企画の主旨にご賛同くださり、2023年3月より定期的な見学会を開始しました。通所者の中には静かに過ごす場所が苦手な人や、大勢の知らない人がいる環境だと過度に緊張してしまう人もいるため、一般利用者がいない第3木曜日の館内整理日にご利用いただくことにしました。

## 緊張感あふれた滑り出し

図書館見学会は、生活介護プログラムである散歩のコースに図書館を組み込んでいただき、10人～14人の通所者が2つのグループに分かれて職員の方と共に来館します。最初に来館した2023年3月は、図書館の独特な雰囲気に加えスタッフとも初対面であり、利用者の皆さんの強い緊張感が伝わってきました。もっともスタッフも知的障害がある方との交流経験が少ないため、負けず劣らず緊張した笑顔でのお迎えでしたが……。回数を重ねるごとに信頼関係が醸成され、笑顔で来館される方が増えてきました。気持ちの良い挨拶を交わし合えるとともに、会話もできるようになってきました。最近では、図書館資料をみなさんと和気あいあいと楽しむ姿から、リラックスができていていると感じています。

## 大人気の「わいわい文庫」

図書館見学会は、作業所のカリキュラムの関係で、1グループ20分程度の短い滞在時間です。短時間で満足をし、楽しかったと思える体験の提供を目指しています。

そこで頼りになるのが、「わいわい文庫」です。

会場である児童室にスクリーンを設置し、まずは大画面で「わいわい文庫」を鑑賞し、その後に図書館資料を自由

に閲覧してもらっています。図書館資料は「わいわい文庫」の内容に合わせた本。例えばパンの作品を上映した時は、パンに関する絵本やサンドイッチのレシピ本などを並べます。他にもLLブックや季節にふさわしい作品を選書しています。

「わいわい文庫」は、どの作品も人気を集めています。中でもクイズ形式の作品（『おにぎりおむすび』、『パンがパン』など）は反応が大きく、図書館スタッフが「今日もクイズを用意しています」と話すと拍手や歓声が起るほど、楽しみにされています。

クイズが始まると「積極的に手を挙げ、大きな声でクイズに答える人」「隣り合った仲の良い人と答えを出し合う人」「は～い は～いと大きな声で手を挙げ続け、クイズには答えないが正解が発表されると全身で喜びを表現する人」など、皆さん思い思いに楽しんでいるようです。



児童室で「わいわい文庫」を鑑賞



「心の中でよだれがでちゃう」  
名言が飛び出した



大きな声で奥付まで朗読する

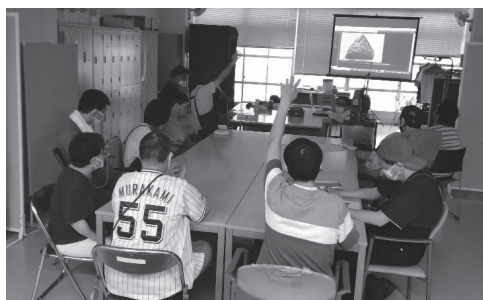
## 継続が力の源

気温が高くなる6月～9月は、通所者の体調管理の面から作業所への出張図書館に切り替えました。

最大のメリットは、図書館への移動時間が無くなるため、じっくりと資料を楽しんでもらえること。来館するスタイルでは時間が無くなり、職員の方に説得され残念そうに本を置いて帰る姿を何度も見ていました。

また、障害が重く散歩に参加できない通所者の人にも、図書館資料に触れてもらえます。75分もの時間をいただ

きましたので、さまざまなプログラムを用意しました。絵本・図鑑や雑誌を詰め込んだコンテナ、パソコン、16ミリ映写機セットと満載の台車を3人がかりで、炎天下によたよたと坂道を下って作業所へ向かいます。それでも図書館資料に触れて喜んでくれる姿を見ると、間隔を空け過ぎずに継続する大切さを感じています。



出張図書館 積極的にクイズに参加



図書館スタッフと絵本を楽しむ

## 広がりを感じる読書活動

作業所の図書館利用は開始からまもなく1年になります。緊張し合った初回から、顔なじみになり、言葉を交わせるなど人間関係の構築に比例するよ

うに、図書館資料にも興味を持ってもらえるようになっていきます。

「わいわい文庫」もクイズ形式の作品だけではなく、絵本の作品である『へんしんトンネル』『どろぼうがっこう』『ぺったん！ サンドイッチ』を見てもらいました。

言葉の繰り返しやセリフ回しに笑いが起こり、「できた！」サンドイッチが完成するたびに拍手が送られるなど、それぞれの作品に対して、豊かな反応を見せてもらっています。

図書館資料の閲覧も進んで本を開く人が増えてきました。作業所職員の方が、「この本面白いよ」とすすめてくれたり、1対1で読み聞かせをしてくれたりと、積極的に係わってくださっていることも後押しになっています。

「利用登録のご案内」を出したところ、数名の方から区立図書館の利用登録がありました。将来的には団体での利用に加えて、個人レベルで図書館を利用してもらえる環境整備と働きかけを検討していく計画です。

利用登録のご案内（表）

利用登録のご案内（裏）



## これからも 町のみんなで

マルチメディアDAISY図書は、一般的な資料と違い、スクリーンへの拡大投影ができ、参加者の状態に合わせて停止や進度のコントロールもできます。そのため、さまざまに個性がある知的障害者にとっても親しみやすい資料であると言えます。みんなで大画面を見て、笑ったり、考えたりする体験は、読書に親しむ良い機会である

と考えています。

「わいわい文庫」には、シンプルなクイズ形式の作品の増加を期待しています。今後もマルチメディアDAISY図書を始め、所蔵するバリアフリー資料の有効な活用方法を探っていくと共に、町のみんなで「つどい」「まなび」「楽しむ」図書館を目指し、障害者サービスの更なる充実を目指してまいります。

## 新宿区立新宿福祉作業所 図書館利用の記録

回数	日程	わいわい文庫	わいわい文庫に対する反応
1	3.16	おにぎりおむすび	無反応・無表情で画面を眺める姿が目立つ。
2	4.20	てんでん!	クイズに積極的に応える方が出始める。
3	5.18	パンがパン	作業所はパンメーカーでもあり、パンの名前を答えるクイズは多くの方が進んで答えている。拍手や笑いに包まれる。
4	6.15	つるつる	前回同様、楽しそうな様子でクイズに答えていた。
5	7.20	どれを食べたかな 海の中をのぞいてみよう	クイズ形式の作品「どれを食べたかな」を上映。 選択式のクイズは回答が難しいという印象もあったが、盛り上がった。
6	8.17	海の中をのぞいてみよう3 おにぎりおむすび	「クイズを用意しています」という言葉に拍手と歓声が起こる。それぞれのリズムで楽しんでいる様子。
7	9.21	どろぼうがっこう まさか!	『どろぼうがっこう』は主人公の先生の独特なセリフ回しに笑いが起こる。クイズは写真物からイラスト物に変更したが、変わらず好評。
8	10.19	へんしんトンネル	絵本『へんしんトンネル』を上映。クイズではないが、ところどころで笑いも起き、楽しんでいることが伺われた。
9	11.16	べったん! サンドイッチ	絵本『べったん! サンドイッチ』を上映。サンドイッチが出来上がる場面で自然に拍手が起こっていた。「おはなし」の作品も十分に楽しんでもらえるようだ。